

ソラマメのビニルハウス栽培における被覆時期と適品種

ソラマメのビニルハウス栽培では、露地栽培に比べ収穫期が前進・拡大し、収量も増加する。被覆時期は、定植時からの被覆が効果が高い。また、品種は‘ハウス陵西’および‘唐比の春’が多収で適する。

農業研究センター い業研究所 作付体系研究室(担当者：木場 達美)

研究のねらい

ソラマメの露地栽培は収穫期間が2週間程度であり、一時的に労力が集中するため規模拡大が難しい。そこで、収穫期の前進化および拡大を目的としたビニルハウス栽培における被覆時期および適品種について明らかにする。

研究の成果

1. ビニルハウス栽培を導入することにより露地栽培に比べ収穫開始が早まり、収穫期間が拡大する。このため労力の分散が図られ、高単価も期待される(第1図)。また、収量も増加する(第1表)。
2. 11月中下旬定植の場合の被覆時期は、定植時からの被覆が1月上旬以降の被覆に比べて、収穫開始が早く収量も多い(第1表、第1図)。
3. ‘ハウス陵西’および‘唐比の春’は、多収でビニルハウス栽培に適する(第1表)。
4. ビニルハウス栽培の導入により生産経費は増加するが、収量の増加および高単価時期の出荷により粗収入が増加し、農業所得も増加する(第2表)。

普及上の留意点

1. 適応地域は、冬季温暖な平坦部とする。
2. 本試験では、催芽後3で25日間の低温処理を実施し、50穴セルトレイで本葉2.5葉まで育苗した後定植を行った。
3. 生育前半の高温は、軟弱徒長及び厳寒期の耐寒性の低下を助長するので、ハウスサイドを開放し、雨よけ状態で管理する。また、0以下では花及び幼莢が凍害を受けるので、厳寒期には夜間ハウスサイドを閉め保温する。25以上の高温では生育が不良となるため、生育後半はハウスサイドを開放し十分換気を行う。

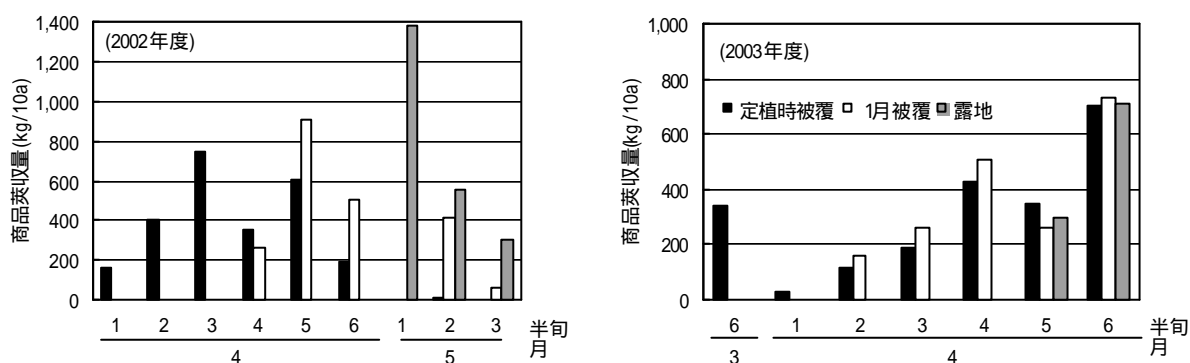
第 1 表 被覆時期が商品莢収量に及ぼす影響

品種名	被覆時期	2002 年度		2003 年度	
		収量 (kg/10a)	1 莢重 (g)	収量 (kg/10a)	1 莢重 (g)
陵西一寸	定植時	2,386 (1,225)	51.7	1,962 (981)	36.4
	1 月	1,825 (795)	53.2	1,896 (887)	34.1
	露地	1,827 (1,066)	45.1	1,150 (779)	41.6
ハウス陵西	定植時	2,731 (1,705)	54.7	2,112 (1,361)	37.7
	1 月	2,046 (1,009)	49.8	2,013 (1,125)	35.7
	露地	2,032 (1,261)	47.1	940 (689)	39.2
唐比の春	定植時	2,471 (1,564)	52.9	2,179 (1,576)	39.0
	1 月	2,150 (1,199)	51.1	1,991 (1,304)	37.9
	露地	2,237 (1,416)	47.3	1,015 (779)	39.5

注 1) 被覆時期 2002 年度 定植時：11 月 14 日、1 月：1 月 25 日

2003 年度 定植時：11 月 26 日、1 月：1 月 7 日

注 2) 収量の()内は 3 粒莢以上の収量



第 1 図 被覆時期の違いと時期別商品莢収量の推移 (品種：唐比の春)

第 2 表 経営試算 (品種：唐比の春)

単位：円/10a

	粗収入	生産経費	出荷経費	経費合計	農業所得
ビニルハウス栽培	731,168	319,076	143,050	462,126	269,042
露地栽培	447,929	194,077	87,635	281,712	166,217

注) ビニルハウス栽培は定植時被覆とした。粗収入は、2 力年の平均月別収量および東京都中央卸売市場の 3 力年(2001 年度～2003 年度)平均月別単価を基に算出した。経費は、平成 11 年度野菜標準農家経営調査(社団法人熊本県野菜振興協会)を参考に試算した。